



四日市看護医療大学

四日市看護医療大学学報 No.19

〔発行日〕 令和7年12月19日 〔発行〕 四日市看護医療大学 庶務課

〒512-8045 三重県四日市市萱生町1200 TEL.059-340-0700 FAX.059-361-1401 <https://www.y-nm.ac.jp/>



「愛される図書館を目指して」

図書館長

吉田 和枝

今年度より、四日市看護医療大学図書館長に就任いたしました吉田和枝と申します。昨年度、設置されました図書・研究支援課と図書委員会が協力して、学生の学修および教員の研究環境を考えています。

今年の4月から図書館のスタッフや図書・研究支援課さらには図書委員会と協働して、どのようにしたら図書館が活発に活用されるようになるかを考えています。今年は、図書館の入口にデジタルサイネージ（メッセージボード）を設置して、新着図書や大学のイベント、さらには教員の研究などを紹介しています。館内に入るとすぐに円卓が置いてあり、ランタンが飾ってあります。そこには看護学科と臨床検査学科の両学科のお勧め図書が展示してあり、手に取って読めるようにしてあります。今までの「The図書館」のイメージを変えています。

また、今年度からの試みとして実習で役立ちそうな図書のコーナーを設置して閲覧しています。もちろん貸し出しも可能となっています。館内のディスプレイも学生の学修時期に応じて変えています。4年生に対しては国家試験までの日数もお知らせしています。年度末になりますと学部生、大学院生においては図書の貸出数が50冊以上の方が対象ではありますが、貸出数が多い順番に図書館よりQuoカードを進呈しています。

新しい図書は学生からの希望はもとより、毎年教員からも推薦していただいて要望の反映に努めています。定期購読雑誌は、国内および外国の雑誌も開架しています。他大学よりも雑誌の種類は多いです。最近、医療系の漫画もシリーズで購入していますのでかなり充実しています。

今後も「愛される図書館」を目指してさらに進化して行きます。そして、学部生、大学院生および教員の皆さんや医療従事者の皆様にも活用していただけるように日々努力して参ります。

令和7年度 入学式

4月2日（水）に令和7年度の入学式を挙行了しました。

今年度は看護医療学部看護学科103名、臨床検査学科39名、大学院看護医療学研究科3名が入学いたしました。柴田英治学長は式辞で「知識や技術を身に付けるだけでなく、人間力を高め、実り多い学生生活にしてほしい」とメッセージを送られました。式典の最後には、看護医療学部、看護医療学研究科それぞれの代表者から入学生宣誓が行われ、決意が述べられました。

また当日は、本学関係者に加え、森智広四日市市長を始めとした多くの来賓の方にもご参列をいただきましたこと、この場をお借りして御礼申し上げます。

最後になりますが、教職員一同、新入生の皆様の本学へのご入学を心より歓迎いたします。



新任教員からのメッセージ

看護学科 教授 大林 陽子

令和7年4月に看護学科に着任しました。専門は母性看護学・助産学です。4月から助産師課程の学生さんの主体的に真摯に学修する姿に感化されながら、本学の基本理念の一つである高度な知識・技術の教授に努めております。また、学生さんが8月から10月まで助産学実習での出産ケアをとおして看護の専門性や責務を自覚し、女性やその家族との関わりをとおして豊かな人間性や高い倫理観を培えるよう指導にあたりたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

看護学科 准教授 加藤 睦美

令和7年8月から、看護学科・基礎看護学領域に着任しました。授業では「看護とは何か」を考え続けてほしいとお話ししました。戸惑うこともあると思いますが、皆さんには乗り越える体力・意志力・そして学びから得た知識があります。自主的に自分らしく学び、客観的に考える姿勢を大切にしながら、少しずつ前に進んでいきましょう。これから一緒に成長できることを楽しみにしています。どうぞよろしくお願いいたします。

看護学科 講師 畠中 易子

私は、看護に携わって数十年が経過しました。「看護」の対象は生活者としての人間を看ることにですが、「生活者としての人間を看る」という問いの難しさを実感しています。基礎看護学では看護技術の基礎を学びます。その上で患者の状況を想定した演習に取り組み看護師としての推論や視点を養っていきます。看護師としての基盤を学び、「看護」を考え「生活者としての人間を看る」ことについて、共に探求できたらと思います。よろしくお願いいたします。

看護学科 講師 中村 眞弓

令和7年4月に着任し、産業看護学・公衆衛生看護学領域を担当しております。保健師は、乳幼児から高齢者まで、あらゆる年代の人々の健康支援を行う専門職です。少子高齢化や災害対応、健康格差など、複雑化・多様化する地域社会において、保健師には高度な専門性や柔軟性が求められます。講義や演習・実習を通して、学生が多角的な視点から地域の健康課題を抽出し、効果的な保健活動が展開できる力を養える教育を目指しています。よろしくお願いいたします。

看護学科 助手 米山 順子

令和7年4月に本学に着任し、主に演習や実習を通じて学生の皆さんとかわかっております。その学ぶ姿勢に触れることで、私自身も新たな気づきや多くの学びを得ております。今あらためて、医療従事者としての倫理観や人間性を磨くこと、そして確かな知識と技術を身につけることの重要性を感じています。学生の皆さんの主体的な探求心や向上心を尊重しながら、共に成長していけるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

看護学科 助手 田村 亮太

令和7年4月に本学に着任し、主に演習や保健師過程、病院での実習で学生と関わらせていただいております。私がこれまで臨床で経験したことを活かし、学生が演習や実習を通して、豊かな人間性と高い倫理観をもち、看護を主体的に学ぶことが出来るよう支援していきたいと考えております。また、私自身も学生との関わりを通して看護について改めて考え、ともに成長しつつ学んでいきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

看護学科 助手 三谷 美香子

令和7年4月に本学に着任し、主に演習や実習で学生と関わらせていただいております。昨年度まで精神科の病棟や訪問看護で働いていた経験と修士課程での学びを生かし、本学の理念である「人間たれ」を大事にしながら学生に精神看護の面白さを伝えることができるように努めています。大学教員としての経験は初めてですが、学生と一緒に考えながら共に成長し学んでいきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

臨床検査学科 講師 安藤 嘉崇

令和7年9月1日より本学臨床検査学科に着任いたしました。臨床検査技師として検体系を担当していましたので、担当科目は血液学、血液検査学、血液検査学実習、情報科学です。研究分野としては「偏った食生活による疾患発症のメカニズム解明」を行っています。国家試験に向けた教育はもちろんですが、研究活動を通して新たなことに取り組む姿勢と面白さをお伝えしていきたいと思っています。若輩者ではございますが、どうぞよろしくお願いいたします。

学友会主催

新入生歓迎会

4月3日（木）、学友会主催の新入生歓迎会が開催されました。緊張した面持ちの1年生たちを楽しませようと、学友会の先輩たちがたくさんの企画を用意しました。例年通りのクラブ紹介やビンゴ大会に加え、今年度はチーム対抗で本学に関するミニクイズ大会が行われ、大きな盛り上がりを見せました。

チームは学籍番号順で組まれ、最初に自己紹介もプログラムされていたため、近くの番号の学生と打ち解けるよい機会となったと思います。

学友会
主催

親睦運動会

6月21日（土）学友会主催の親睦運動会が開催されました。各自飲み物やハンディファンも持参し暑さ対策万全のなか、緊張をほぐすためのアイスブレイク・じゃんけん列車から始まり、障害物競走、ドッチボールが行われました。競技には臨床検査学科の先生も参加し、学生も大いに盛り上がっていました。競技終了後は涼しい教室に移動し、ビンゴ大会と運動会の表彰式が行われました。学年の壁を越えて親睦を深められた1日になったと思います。



クラブ紹介

テニス
サークル

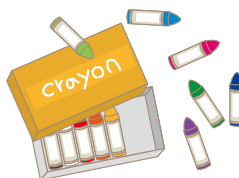
看護学科 3年 三輪 将之

テニスサークルは月曜日、水曜日に四日市大学のオムニ・ハードコート借りて学生同士で交流し、練習しています。複数人集まって活動することもできますが、指定の曜日であれば2人でも練習可能です。軟式・硬式どちらの経験者も多く、初心者でも楽しめるかと思います。大会などにも出場可能で自分のペースで出来るサークルです。運動不足解消などの目的にも適しています。

くれよん
サークル

看護学科 2年 大竹 夕菜

くれよんサークルは、重症心身障がい児施設を訪問し、レクリエーションなどを通じて子どもたちに多様な体験を届けています。年齢や個性に合わせた企画を考える過程から楽しく、自分たちで考えた企画で子どもたちが笑顔になってくれることが本当に嬉しく、励みになっています。ほかにも施設主催のイベントのお手伝いなどさまざまな形で子どもたちと関わり、一緒に過ごす時間を大切にしています。子どもたちの行動やそれぞれのコミュニケーションの取り方などから学ぶことも多く、私たちの成長にもつながっていると感じます。



実習について

臨地実習における学生の状況

看護学科実習委員会 実習委員長・教授 三好 陽子

9月初旬より、成人、老年、小児、母性、精神、在宅などの領域別実習が始まりました。6か月間にわたる長期の実習になります。本学は市立四日市病院をはじめとする医療・介護施設などで、豊富な実習を行っております。看護は実践の科学です。臨床現場で、学生達は講義で学んだ知識や技術を実践に応用し、看護師として必要な能力を養います。実習期間は看護学生生活のなかでも大変な期間ですが、自身の看護に対する思いや考えを見つめ直す貴重な時間であり、看護観の形成を促します。実習期間で得た経験や知識は、就職活動やその先の看護師のキャリアにつながります。また、長い実習期間を過ごしていくためには、学生個々の健康管理や感染対策が大切です。本学では、実習開始前に感染管理の認定看護師から感染対策の研修を受けたうえで実習を行っております。各担当教員も学生の貴重な学びを支援するため日々尽力しております。学生達も健康管理に留意しながら元気に頑張っております。



伝統の「灯り」がつなぐ臨地実習宣誓式

臨床検査学科実習委員会 実習委員長・教授 千原 猛

5月23日、学長、三重県臨床検査技師会会長をはじめ、多くの先生方、ご父兄の皆様のご臨席のもと、4回目の「臨地実習宣誓式」が厳かに執り行われました。

この宣誓式では、臨地実習への最終試験である「臨地実習前技能修得到達度評価」に合格した証として「名札」が授与されます。これは臨床検査技師を目指す者として職業に対する意識を高め、その責任を自覚するという意味が込められています。

しかしこの式は単なる「名札授与式」ではなく「宣誓式」です。本学科では「ヒポクラテスの誓い」を参照にした「臨床検査技師としての誇りと社会的使命の誓い」を全員で宣誓します。この「誓い」を大きな声で宣誓することで、臨床検査技師としての使命を再確認し、モチベーションを高揚させ、実習を共にする仲間との連帯感を深めます。そして困難な場面に直面してもそれを乗り越える強い意志の一步となることを期待しています。

宣誓時には学生各自が1本の口ウソクの「灯り」を持ちます。この「灯り」は1回生から使用されている太い口ウソクから分かち合う形で受け継がれています。「灯り」は命の尊さが託されている象徴であるとともに、臨床検査技師となる誇りと責任を自覚する伝統の「灯り」として毎年つなげられていくことを心から願っています。



看護学科実習体験記

看護学科 1年 大江 七聖

私は基礎看護学実習Ⅰで、患者さんに寄り添う看護の大切さを学びました。

患者さんの体調に気を配るだけでなく、生活環境に目を向けることで療養生活の不便を減らし、安心して治療に専念できることを実感しました。また、看護は一人で行うものではなく、医師やリハビリスタッフなど他職種と情報を共有することで、退院後を見据えたより良い看護につながることを学びました。

短い実習期間でしたが、患者さんの思いを大切にしながら支える看護の奥深さに触れ、自分自身も成長できたと感じています。さらに、知識や技術だけでなく、思いやりの心を持ち続けることが看護師として大切であると強く感じました。今回の学びを忘れず、今後も日々努力し勉学に励んでいきたいと思っています。

臨床検査学科実習体験記

臨床検査学科 3年 山田 涼葉

臨地実習では、学校で学んだ知識を活かしつつ、病院でしか得られない貴重な経験ができました。患者さんは一人ひとり症状が異なり、車椅子の方もいれば、ベッドで検査に来られる方もいます。同じ対応ではなく、その方の状況に合わせた細やかな配慮が大切だと学びました。検体検査においても再検査を減らし、患者さんの負担を軽減させるための工夫や心遣いが一つ一つの手技や過程に詰まっていることに感動しました。また、病院内で多様な専門職の方々が連携し、チームとして患者さんのために尽力されている姿を見て、臨床検査技師という仕事への憧れがさらに強くなりました。この実習で得た学びと感動を胸に、国家試験の勉強、そして自分の将来へと活かしていきたいと思っています。

医療現場に則した実践型

「臨地実習前技能修得到達度評価」を実施

臨床検査学科 高崎昭彦

臨床検査技師を取り巻く環境も年々変化しており、養成校においても修得する知識・技術を一定水準に保つことが重要になっています。特に「臨地実習」に臨むにあたり、最低限の知識・技術を修得しておくことは特に重要です。令和4年度から適用されている新カリキュラムでは臨地実習の質向上を目的とし、臨地実習関連単位数が指定規則7単位から12単位に増え、その12単位の中で「臨地実習前技能修得到達度評価」を1単位履修することとなっています。医療系の養成校で行われているいわゆるOSCE試験（模擬患者への対応含む）です。本学は開設当初から本評価を想定し、全国的な正式実施の前に既に1期生より実施していました。臨地実習に臨む3年生は学内で学んだ知識・技術を集結し、さらに対模擬患者様への的確な対応も評価の対象となるため、学内実習とは異なった緊張感をもって準備し試験に臨んでいました。今年度からはより現場に則した設定として「模擬患者」を想定した試験項目を増やし、患者様へのよりわかりやすい検査説明・対応の必要性を再認識させることにつながったと感じています。また臨床検査技師会より会長、副会長に「外部評価員」として加わっていただき、例年になく緊張感を持ちながら、充実した試験となりました。合格した3年生30名は6月より約3か月の実習に臨みました。この評価・試験がより質の高い「臨地実習」につながるよう年々工夫を加えていきたいと思っています。

海外研修

海外研修

看護学科 講師 春名 誠美

2025年8月3日から11日まで、カリフォルニア州立大学ロングビーチ校(CSULB)への海外研修でした。今年度は、看護学科11名・臨床検査学科2名の13名が参加。現地では、医療英語研修に看護専門職(NP)からの講義、CSULB学生との交流など日々充実したプログラムでした。特にNursing laboratoryでは、大学院生に説明を受けながら、学生たちは目を輝かせ積極的に質問していました。本研修は、学生たちにとって将来への糧となる素晴らしい経験であったと思います。CSULBの皆様、研修準備サポートして下さった皆様に心から感謝申し上げます。



令和7年度海外研修体験記

看護学科2年 泉 心菜

8月3日から11日までの1週間、2年生13名でカリフォルニアに滞在しました。医療英語を学ぶ中で言葉の壁を感じつつも、伝えようとする姿勢の大切さを実感しました。カリフォルニア州立大学で最新の教材に触れ、日本では得られない学びに刺激を受け、看護をより広い視点で考えられるようになりました。



また、午後の交流では現地学生の積極的な姿勢に感化され、自分ももっと主体的に学びや交流に取り組みたいと思いました。文化や価値観の違いに触れたことで、自分の看護観を広げられた1週間でした。

また、午後の交流では現地学生の積極的な姿勢に感化され、自分ももっと主体的に学びや交流に取り組みたいと思いました。文化や価値観の違いに触れたことで、自分の看護観を広げられた1週間でした。

大学祭

10月25日（土）、単独では3回目となる大学祭を開催しました。今年度のテーマは「～はじけるイマ、つながるミライ～」。当日は、模擬店や音楽ライブ、ダンスイベントをはじめ、大道芸人によるパフォーマンスやお笑いライブも行われ、大きな賑わいを見せました。他にも防災イベントや看護体験、医療系サークルによる企画など、看護医療大学ならではのイベントも開催され、幅広い年代の多くの方にご参加いただきました。

学生会会長 看護学科2年 宮本 梨沙

5月から企画を始め、大変なことが多くありましたが、試行錯誤を重ね、準備してきました。参加者の笑顔を見て楽しい大学祭を作ることができたと感じています。協力してくださった方々ありがとうございました。



学生会副会長 看護学科2年 芦川 陽菜

今年は消防体験や福引き、お笑いライブなど新たな企画も加えての開催でした。多くの方々のご協力で無事終えることができ、皆さんの笑顔が見られて嬉しかったです。ありがとうございました！



森 智広市長に講義をしていただきました

森智広四日市市長が4月10日（木）、看護学科1年生103人を対象にした「四日市市の暮らしと文化」の授業で講義を行われました。「2025年31万人元気都市四日市の展望」をテーマに、市の産業やその歴史にも触れ、現在国が進めているバスターミナル事業など、中心市街地の再開発に関するさまざまな取り組みを紹介されました。それを踏まえ「皆さんが大学で学んでいるこの4年の間に、四日市の街が大きく変わっていく。ぜひ市の中心部に足を運んでもらって、変化する街の様子を楽しんでもらえたら」と話されました。また、自身の大学時代のエピソードも話され、「大学4年間は貴重な時間。気の合う仲間を見つけて学業以外でもできるだけ多くの経験をして、有意義な大学生活を送り、豊かな人間性を育んでもらいたい。」とエールを送られました。授業は全8回で、学生は柴田英治学長や四日市市の職員などからも講義を受けました。



オープンキャンパス

令和7年度オープンキャンパスは、6月8日(日)、7月19日(土)、8月9日(土)と3回実施されました。

最初の全体説明では、柴田学長の挨拶にはじまり、四日市市健康福祉部様からは公私協力方式による本学の特色や支援制度について、続いて両学科長、入試広報室より大学・学科の紹介が行われました。

その後、両学科それぞれ模擬講義や実習体験を行い、教員や学生と参加者の方で楽しく交流しました。また個別相談・先輩と話そうコーナーでは、入試内容や奨学金のことだけでなく、実際の学生生活などを熱心に質問する参加者で賑わっていました。

参加者からは「先生や先輩とお話できてとても良い時間になった。」「看護師や臨床検査技師についてより理解を深めることができた。」「大学の雰囲気が良かった。」などの声が数多く聞かれました。

オープンキャンパスを通じて本学の魅力を感じていただき、今後の進路や目標を決めるきっかけになればと思います。



高大連携について

高等学校との高大連携事業について、7月10日(木)、3年生18名(看護医療コース選択者)を対象として、本学にて大学講座体験を実施しました。

看護学科では『医療現場で働く看護師について』と題して「看護職者(看護師)とは何か、なり方・進路について」、「対象者(高齢者)の特徴や特性について」を、また臨床検査学科では『自分の口内チェック!細胞を見てみよう!〜口内細胞を採取→染色→観察〜』を体験していただきました。参加された生徒の皆さんは、大学の教員や在学生の先輩たちに指導を受け、緊張しながらも、楽しそうに学んでいました。



楽しそうに学んでいました。

この高大連携事業では、高校生に大学での学びを経験することを通じて、看護医療系の理解を深め、進路選択の幅を広げる機会となることを目的としています。高等学校から本学または医療系養成校進学への意識向上につながるよう、今後も高大連携事業を推進して参ります。



長江拓子奨学金授与式

6月25日(水)、長江拓子奨学金授与式を行いました。

この奨学金制度は、本学で教鞭をとられ顧問としてもお力添えをいただいた長江拓子先生から頂戴した寄付金を基に創設されました。厳正な審査の結果、看護学科2年生1名が令和7年度の奨学生として選出され、授与式では柴田学長から賞状と奨学金が授与されました。受賞した学生は、この資金を海外研修の費用に充てると述べ、列席した先生方からも更なる活躍を期待する声が聞かれました。



リベラルアーツ奨学金授与式

3月27日(木)、リベラルアーツ奨学金授与式を行いました。

令和6年度より始まった新たなこの奨学金は、本学で教鞭を取られた先生から頂戴したご寄付を基に創設されました。学業成績、特に教養科目における成績が優秀な二年次の学生から選考した結果、両学科より一人ずつ、計2名に授与することを決定いたしました。

授与式では、奨学金の趣旨をよく理解し、今後の自己の学修や社会活動に役立てるよう激励があった後、柴田学長より賞状及び奨学金が手渡されました。



河野啓子賞授与式

今年度の河野啓子賞授与式は令和8年2月の3週目～4週目の期間で予定しています。

令和7年度 地域貢献活動

公開講座

【担当】看護学科 准教授 久留島 実姫

8月2日（土）、じばさん三重にて公開講座を実施しました。

今年度は久留島 実姫准教授が「これからを自分らしく生きるための準備～終活ってなんだろう？～」をテーマに講義を行いました。

終活は元気なうちに「人生の棚おろし」をし、やり残したことはなかったかを気付くことが大切であると、様々な終活方法について説明がありました。参加者の皆様からは「身体と心に余裕のある今、終活を始めようと思いました。」「早速、家の中の片付けから始めたいと思います。」等の感想を頂戴しました。

今回の講座が参加者の皆様の一步を後押しする機会になりました。



終活の具体的な進め方やエンディングノートの活用方法等、今後の人生を見つめ直すきっかけ作りになったと思われます。

みえアカデミックセミナー

【担当】臨床検査学科 教授 森 啓至



「みえアカデミックセミナー」は、三重県生涯学習センターにより開催されている県内にあるすべての大学・短期大学・

高等専門学校の高等専門機関、全14校が参加する公開セミナーです。

8月21日（木）に「嗅覚の異常が認知症につながる可能性」と題し、森啓至教授が講師を務めました。講演では、「匂いを感じる仕組み（嗅覚）」や「嗅覚障害と炎症と神経変性疾患の関係」について紹介があり、具体的な疾患と嗅覚異常との関係が説明されました。嗅覚検査の体験では、参加者の皆様はとも興味がある様子で3種類の匂いをかぎ分けておられました。日常生活で匂いに敏感になる事こそが、病気の発見にもつながるとのことでした。



地域健康教室

【担当】看護学科 教授 大林 陽子

10月25日（土）、本学において地域健康教室を開催いたしました。

今年度のテーマは「生活習慣を見直して健康寿命をのばしましょう」とし、大林教授が講義を行いました。講義では、身体活動・運動や食事など、日々の生活習慣の重要性について解説されました。また参加者の皆様とともに「いきいき健康長寿体操」を実施いたしました。体操では、主に椅子を用いた下肢筋力のトレーニングに取り組みました。参加者の皆様からは、「普段使わない筋肉を動かして良かった」「高齢になると下肢の筋力が重要であることを改めて理解できた」などの感想が寄せられました。

健康意識の高い参加者の皆様が多く、積極的に体操に取り組む姿が見られました。本教室は、健康維持や体力向上への意識を一層高める有意義な機会となりました。

今後も、地域に開かれた大学として地域貢献活動を継続してまいります。



健康フェスティバル2025 「健康いきいきフェア」を開催しました //

2025年6月と10月に「トナリエ四日市」にて、健康フェスティバル2025「健康いきいきフェア」を開催しました。地域の健康意識向上を目的に、今年で4年目となる本イベントは、血圧チェック、骨密度測定や顕微鏡体験など多様な健康ブースを展開し、毎回50名以上の来場をいただいています。企画・運営は看護学科と臨床検査学科、両学科の学生主体で行われ、お互いが協力することで学科を超えた連携も深まりました。来場者にはささやかなお礼として学生手作りの折り紙作品を渡していますが、笑顔で受け取っていただいております。複数回にわたる来場者もいっしょに、地域に根付いた活動として定着しつつあります。今後も地域に開かれた大学として、教育と社会貢献の両面から、学生とともに地域とのつながりを大切にしていきたいと考えています。



地区 踏査

保健師課程授業紹介 —地区踏査演習—

保健師課程では、「地域診断」を学習しています。地域診断は、地域情報収集・分析、健康課題と対策の検討・実施、結果の評価と改善点の検討を含む一連のプロセスです。

健康課題への対策は、その地域に住む方の生の声や、実際に保健師自身が五感を使って歩いて得た「地区踏査」での情報から検討することが重要です。本学では数年前から継続して、八郷地区の皆様のご協力を得て地区踏査演習を実施しています。

今年度は4年生「公衆衛生看護活動論Ⅲ」の授業内で、4月25日（金）の午後に地区踏査演習を行いました。八郷地区内の中村組の講義室をお借りして拠点とし、八郷地区を9地区に分け、学生たちは各地区にお住まいの方と一緒に話しをしながら地区を歩きました。また、生活の中で感じていることや健康意識についてのインタビューも行いました。ごみ出しなど日常の些細な困り事を支え合う互助活動や、防災倉庫の見学、交通事情や医療機関についての生の声を聞き、学びを深める大変良い機会となりました。

本学では引き続き、地域の皆様からのお力添えをいただきながら、健康を支える専門職である保健師の育成に努めていきます。

教育後援会事務局より

令和7年度 教育後援会役員会・総会

今年度は、新学期早々から会長含め、新役員に多数の会員様を推薦させていただきました。推薦させていただいた方の中から役員就任へご快諾をいただき定数の役員数が整い、若干敬遠され気味の会長職については、今年度から役員である泉地様へ期待を込めて打診したところ、その大役をお引き受けいただくこととなり、役員会の開催及び進行とも円滑に進めることができました。この場をお借りして、泉地会長には心より感謝申し上げる次第です。役員会の審議を経て、後日、書面をもって総会を開催し、多数のご承認をいただき議事案が成立いたしました。教育後援会は学生の充実した大学生活を支える上で、無くてはならない組織であるとともに、父母等様のご支援無くしては存続できません。今後とも役員様含め、父母等の皆様には何卒格別のご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



令和7年度 教育後援会 父母等懇談会

10月4日（土）本学において、父母等懇談会を開催させていただきました。

今年度も臨床検査学科は37組、看護学科は46組の申込をいただき、好評のうちに終えることができました。

ご参加いただいた父母等様、並びに会員皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

全体説明会では、学科長による本学の取組を中心に、また卒業生を招き大学生活や職場の近況などを聴講いただきました。

また、その後各アドバイザー担当教員による個別面談を実施し、ご息女の学生生活を知るいい機会となったと思います。個別面談では直接教員が担当しますので、授業や実習での様子、国試や就職に向けた対策などより具体的にご理解いただけたのではないのでしょうか。

今後も本会をより一層充実させられるよう、教職員一同精進いたしますので、ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

教育後援会事務局



国家試験対策

看護学科

看護学科では、昨年度よりe-learningを導入し国家試験合格を支援しています。結果、高い合格率を実現しました。今年度も4年生には模試の振り返りも可能な多機能のシステム、1～3年生には国試過去問を学習できるシステムを導入しております。低学年から国試問題に触れることで、早期からの対策となります。一方、個人の進捗に合わせた対面での助言・相談体制を構築し、教職員一丸となって、全員の国家試験合格と夢の実現を応援しています。

臨床検査学科

臨床検査学科では国家試験に向け、本格的な受験勉強に日々取り組んでいます。学科では3つの対策を進めています。1「模擬試験」の実施。前学期4回の学内模擬試験と後学期8回の全国模擬試験を行っています。2「特別演習」の実施。4月から2月まで、空き時間（149コマ）を活用し、国家試験対策講義を実施しています。3「確認試験」の実施。10回のアウトプット用のオリジナル問題で試験を実施しています。

就職・進路状況 四日市看護医療大学 2024 年度(2025 年 3 月)卒業生

1. 就職・進路状況

看護学科	就職	希望者	121 名
		決定者	120 名
		うち四日市市内の医療機関等	50 名

臨床検査学科	就職	希望者	51 名
		決定者	51 名

*進学希望・決定者 3 名(四日市看護医療大学大学院、名古屋大学大学院)

2. 就職先

看護学科	都道府県	医療機関等
	三重県	市立四日市病院、三重県立総合医療センター、桑名市総合医療センター、三重中央医療センター、済生会松阪総合病院、松阪市民病院、三重大学医学部附属病院、伊勢赤十字病院、四日市羽津医療センター、北勢病院、市立伊勢総合病院、JA 三重厚生連 松阪中央総合病院、JA 三重厚生連 菰野厚生病院、JA 三重厚生連 鈴鹿中央総合病院、藤田医科大学 七栗記念病院、三重県立志摩病院、菰野町役場
	愛知県	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院、名古屋市立大学医学部附属東部医療センター、名古屋市立大学病院、名古屋大学医学部附属病院、愛知県医療療育総合センター 中央病院、JA 愛知厚生連 豊田厚生病院、JA 愛知厚生連 海南病院、一宮西病院、あいち小児保健医療総合センター、名古屋ハートセンター、北病院
	静岡県	市立御前崎総合病院
	滋賀県	近畿健康管理センター
	大阪府	大阪大学医学部附属病院、市立東大阪医療センター
	京都府	京都桂病院
	千葉県	東京歯科大学市川総合病院
	東京都	順天堂大学医学部附属順天堂医院、虎の門病院

臨床検査学科	都道府県	医療機関等
	三重県	三重県、市立四日市病院、桑名市総合医療センター、鈴鹿回生病院、四日市羽津医療センター、三重県立志摩病院、みたき健診クリニック、みたき総合病院、亀山市立医療センター、株式会社 近畿予防医学研究所 津ラボ、三重県済生会 明和病院、武内病院
	愛知県	日本赤十字社愛知医療センター 名古屋第一病院、西尾市民病院、小牧市民病院、中京サテライトクリニック、JA 愛知厚生連海南病院、JA 愛知厚生連稲沢厚生病院、ART クリニックみらい、総合大雄会病院、中野胃腸病院、大名古屋ビルセントラルクリニック、オリエンタルクリニック、名古屋臨床検査センター、クローバーライト、あいち健康クリニック、愛知県警察、総合病院 南生協病院、医療法人 深谷会 富士病院、半田市医師会健康管理センター、赤門ウイレックス、大雄会ルーセントクリニック
	岐阜県	松波総合病院
	静岡県	聖隷福祉事業団 地域・企業健診センター、菊川市立総合病院、株式会社メディック（静岡ラボ）
	滋賀県	近畿健康管理センター、メディック
	石川県	金沢病院
	和歌山県	国立病院機構 南和歌山医療センター
	京都府	ファルコバイオシステム
	千葉県	亀田総合病院
	東京都	(株) EP Link、(株) ビー・エム・エル、(株) SRL

3. 国家試験状況

【看護師】 98.3% (受験者 121 名 / 合格者 119 名) 【保健師】 100% (受験者 49 名 / 合格者 49 名)

【助産師】 100% (受験者 7 名 / 合格者 7 名)

【臨床検査技師】 96.2% (受験者 52 名 / 合格者 50 名)

4. 全体状況

6 月から採用選考活動が開始され、学生が主体的に就職活動できるよう、キャリア支援委員会・アドバイザー教員を中心に全学的な体制でサポートを継続しています。

今年度も国試対策を強化し、全員合格 100% を目標としていきます。

防災・減災の取り組み

災害・感染対策チーム長 小寺直美

本学では、災害・感染対策チームが中心となり防災・減災に関するさまざまな取り組みを進めています。ここでは、今年度の主な活動をご紹介します。

1. 防災訓練

今年度は、防災・減災マニュアルの実効性を検証するため、実際の災害発生時を想定した実地訓練を実施しました。救護班の活動では、一時救護所の設営も行い、災害時の対応体制の強化を図りました。

また、事前予告なしで安否確認を行うことで、緊急時の情報収集体制の確認と改善にも取り組みました。

2. 防災・減災マニュアルの修正・更新

学内の各実習室などで管理されている物品のうち、災害時に活用可能なものを整理し、「災害時使用可能物品リスト」を作成しました。

これにより、災害発生時に迅速かつ的確な対応ができるよう、備品の管理体制を強化しています。



ハラスメント対策について

ハラスメント対策委員長 大林陽子

本学ではハラスメント防止・対策に努めるために、学生便覧をはじめ、本学ホームページやパンフレットの掲載による啓発活動や研修会を行っています。

今年度の全教職員対象の研修会は、「教職員間のハラスメントとその予防」をテーマに外部講師をお招きして12月25日に行う予定です。また、相談窓口担当者対象の研修会は、8月6日に実例をアレンジしたシナリオに基づいたロールプレイを行い、相談員の対応について検討しました。

今後もハラスメントのない、ハラスメントに対応できる環境を学部生・大学院生・教職員の皆様に提供できるよう努めます。

Maxマート・B館学生ホールについて



令和7年1月より、無人コンビニ「Maxマート」がオープンいたしました。オープン直後から、たくさんの方にご利用いただいております。商品数が充実しており、パンや冷凍食品、スープ類などの様々な商品が展開されています。また、学生からの要望を書きことができるノートがMaxマート内にあり、対応可能な要望にお応えしています。

※営業時間は平日の8:00～17:00となります。



B館1階の学生ホールをリニューアルし、令和6年度卒業生から机、椅子一式が寄贈されました。学修しやすく、居心地の良い空間となりました。

B館3階学修スペースがリニューアルしました

令和7年10月に、B館3階の学修スペースが新たにリニューアルいたしました。教育後援会や学友会にご協力を頂き、仕切り設置による冷暖房完備や机・椅子のリニューアルなど快適に学修できるよう整備ができました。また学修環境の名称として、大学のイメージカラーや共有の場という意味を込めて「オレンジコモンズ」と学生が提案しました。落ち着いた雰囲気、勉強するのに快適な空間となりました。



本年度学位記授与式

令和8年 3月10日(火) 10時～

都ホテル四日市において挙行する予定です。

大学公式SNS アカウント

授業風景や学内の日常、学食メニュー等を紹介しています。
ご興味のある方はぜひフォローをお願いいたします。



Instagram



X